

「地元学」から始まる暮らし作り・角川作り ～外部参加者と協働する活動の展開～



角川里の自然環境学校・里の自然文化共育研究所
Institute of Collaborative Education for Sustainable Rural Communities

出川 真也
Shinya Degawa

知恵や風習が「宝物」 ～自然と文化を学び、教えることで地域再生～



角川里の自然環境学校のこれまで 2003年～2007年

角川自然学校の前身 南部里地探検隊の活動



カタクリの花、ギフチョウ観察会



浄の滝・ヒメサユリ観察会

地元学（地域の環境文化調査）

～まずは地域の「あるもの探し」からはじめよう～
子どもから大人まで地域住民とヨソモン参加で実施



地元学（地域の環境文化調査）

～聞いて、見て、やってみて、調べました～

子どもも大人もじいちゃん、ばあちゃんも楽しくなる



地元学（地域の環境文化調査）

皆で発表会、調べたものを地図にまとめて今後の活動を話し合う。
集落の将来の夢を語り合いました。



子供から大人、じいちゃんばあちゃんまでみんなで語り合いました。

角川里の自然環境学校の設立へ

最上郡戸沢村角川地区は

- 豊かな山と川に囲まれた日本の原風景を残す農山村
- 里の環境に根ざし貴重な自然や文化が息づく農山村

課題；地域の財産が受けつながられないまま廃れようとしている



角川里の自然環境学校の設立

- 地域住民が「里の先生」
地域文化（知恵や技術）を担う住民が活動の中心
- 地域の自然や文化を再発見
農山村の未来に向けて子供達に教え伝える取り組み
- 住民主体の新たな地域作りを行う地域運営学校

組織構成

角川里の自然環境学校は、
角川14集落の「里の先生」を中核に、6学校と4部局で構成。

- 山の学校
- 川の学校
- 食の教室
- 農の学校
- もの作り塾
- 民話・昔遊び塾
- 研究部（コミュニティ活動・環境保全/地域資源研究部）
- 交流部（里親委員会、ヨソモン交流会館）
- 探検部（南部里地探検隊）
- 応援部（自然学校サポーター ※主に高校生と若手社会人）

山の学校：散策会 一里山の文化を結び付けて学ぼう

もの作り材料集め、炭焼き窯体験、ブナ林散策会



山の学校：ログハウス建設

子ども達の里山・農村学習の
拠点になっています。



里山散策会から得られた子ども達の
着想を元に、地元おじさんたちが計画

山の学校：炭窯作りの復活



地域の技術の再発見と活用、後継者の創出

川の学校



田んぼの学校



農の学校：畑の学校（野菜作りと里山保全活動）



食の教室



地域伝統の食の技術が
新たな産品開発へつながる

もの作り塾

里の素材を生かしたもの作り塾を開催。



角川民話塾

～角川弁で語られる地域の人々の心に残る言い伝えから学ぼう～



里親委員会の取り組み

地元もヨソモンもみんなですの自然
や文化を伝え、暮らしを共有したい



ふるさとの原風景を元気付ける取り組みは地域も
ヨソモンも協働でかかわりうるもの。
結果として交流人口が拡大しています。

※外部参入者のことを親しみを込めてヨソモンと地元では言います。

学習旅行の受入れ



NPO法人 里の自然文化共育研究所の設立

山・里から川・海取材対象活動の概要そして都市住民との協働へ
「山里川海をつなぐ環境保全活動ネットワークプロジェクト」



里の保全活動をより広域に、より多くの
人々との協働で進めていこう！
活動の広がりと深まりを目指して「里
の自然文化共育研究所」が活動を開始！

海の拠点(酒田市)
海の地元学
と食文化交流

川の拠点(最上峡)
森林再生と
川の体験活動

海辺の拠点(三瀬)
海辺の地元学と
自然体験・保全活動

山・里拠点(角川の里)
里地里山保全活動

しな織の里
伝統工芸品
と里山研修

都市部(山形市・仙台市)
青少年体験活動市民世帯
との連携

吉本地元学の実施 (2008年2月)



吉本哲郎氏の提案



2008年度は

- 体験旅行年間受け入れ人数 2,000人を越えます。
- 受け入れを「イベント」提供ではなく、毎日の角川の暮らしを体験学習の題材に。
- ガイド・里親の料金体系と位置づけを改変
 - ・里の先生＝1人案内につき1,000円/半日支給
※但し10%を地域還元
 - ・里親＝「ホームステイ」3,500円/1泊2日＝「お礼」
- お土産物開発（食産品、工芸品など）を。